

JR 羽犬塚駅周辺地区まちづくりビジョン

～デザイン編～

ほっ

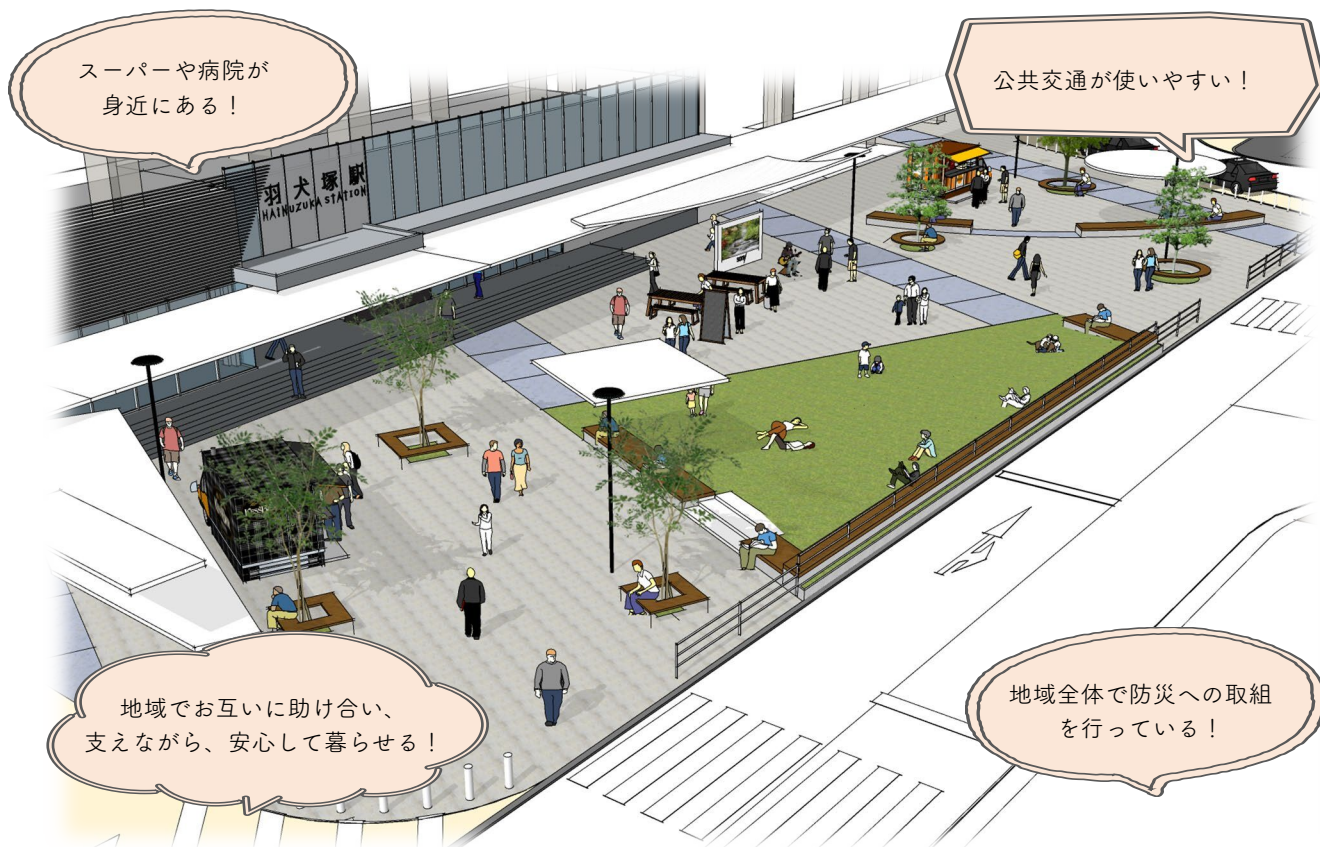
と暮らせる 駅前リビング

～「便利なまちの玄関」から「居心地の良いまちのリビング」へ～

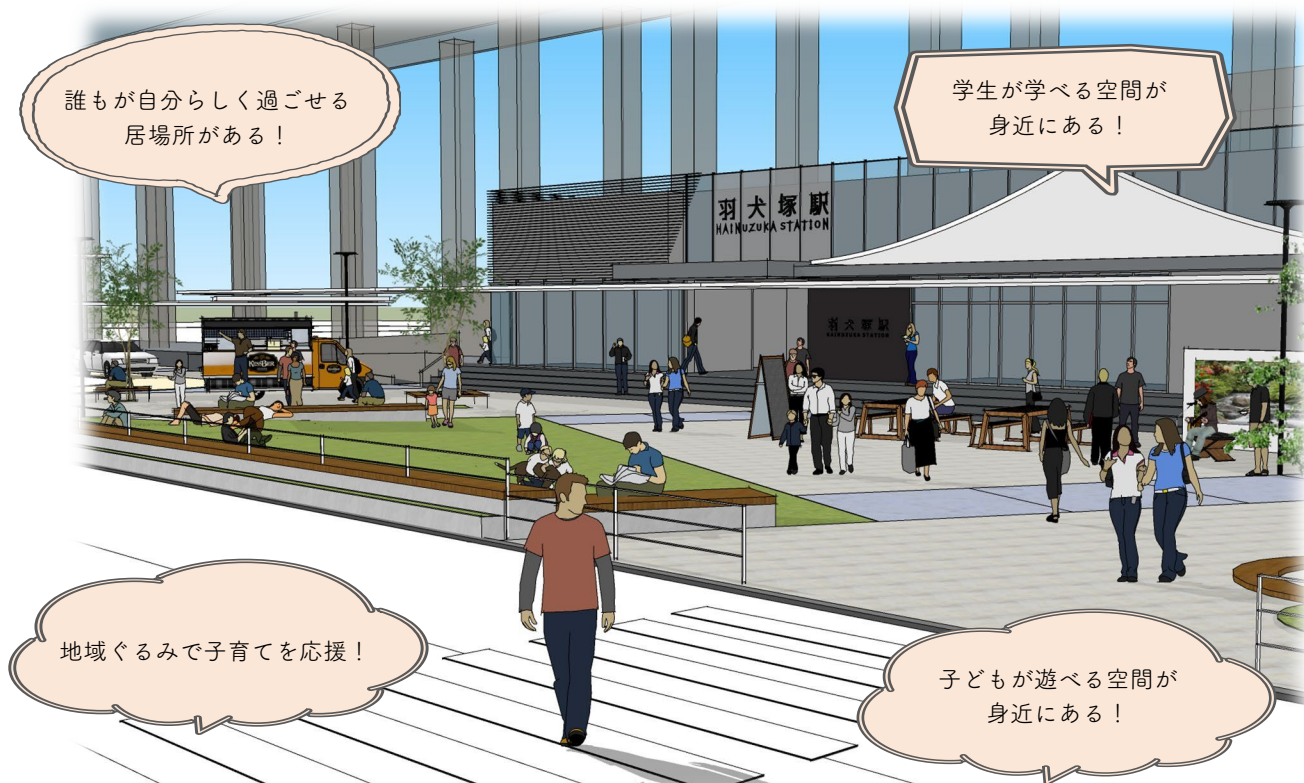


令和7年7月

JR 羽犬塚駅周辺地区エリアプラットフォーム



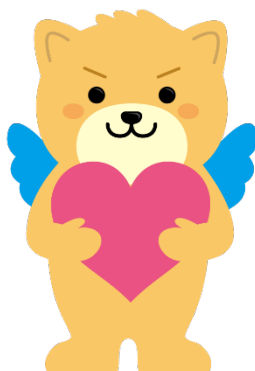
「ほっと暮らせる 駅前リビング」



この図面はイメージであり、確定したものではありません。

目次

1. デザイン編の策定について	1
1) デザイン編策定の背景	1
2) 対象地区	1
2. 地区のポテンシャルと課題	2
1) ポテンシャルマップ	2
2) 住民の意見	5
3) 地区のポテンシャルと課題	6
3. まちの将来像	7
1) まちの将来像	7
2) 将来像実現のための3つの柱	8
3) ダイアグラム	9
4) 将来方針図	11
4. デザイン方針	13
添付資料	15
1) まちづくりビジョン(デザイン編)の策定経緯	15



1. デザイン編の策定について

1) デザイン編策定の背景

JR羽犬塚駅周辺地区では、頻発・激甚化する水災害に対応した防災まちづくりや、低未利用地や地域資源を活用した活力と魅力あるまちなかの形成に向け、令和3年度より本地区のまちづくりビジョンの策定に取り組んできました。行政・住民・事業者・学識などの多様な人材が参画した協議の場において、本地区の課題や現状分析を行いながら、情報共有や合意形成を図り、令和4年3月29日に『JR羽犬塚駅周辺地区まちづくりビジョン』の取りまとめを行いました。

このまちづくりビジョンを実現させ、安全で安心に暮らせるまちづくりの推進や駅前エリアの活力・魅力の向上に向け、「JR羽犬塚駅周辺地区エリアプラットフォーム」を令和4年6月1日に設立しました。

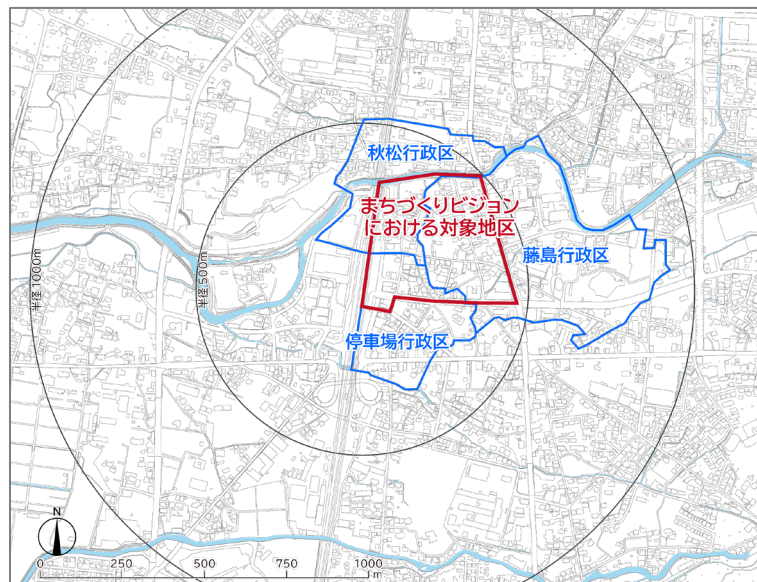
また、令和6年3月には、筑後市が『JR羽犬塚駅周辺地区都市再生整備計画』を策定し、まちづくりビジョンの実現に向け大きく動き始めています。

今後、JR 羽犬塚駅周辺地区がより魅力的で快適性を兼ね備えた居心地が良い空間づくりを官民が連携しながら進めていくため、地区全体のデザインの統一的な考え方について、『まちづくりビジョン別冊(デザイン編)』をとりまとめることとします。

2) 対象地区

まちづくりビジョンの対象地区は、JR 羽犬塚駅東側の下記赤線の範囲である約10.7haを基本とします。この範囲は、市が都市再生整備計画に基づき実施する主な整備範囲ですが、現在、停車場行政区、藤島行政区、秋松行政区と協働して様々なまちづくりの取組みを継続して行っているため、この3つの行政区でまちづくりビジョンを共有し実現を目指していきます。

【まちづくりビジョンにおける対象地区】

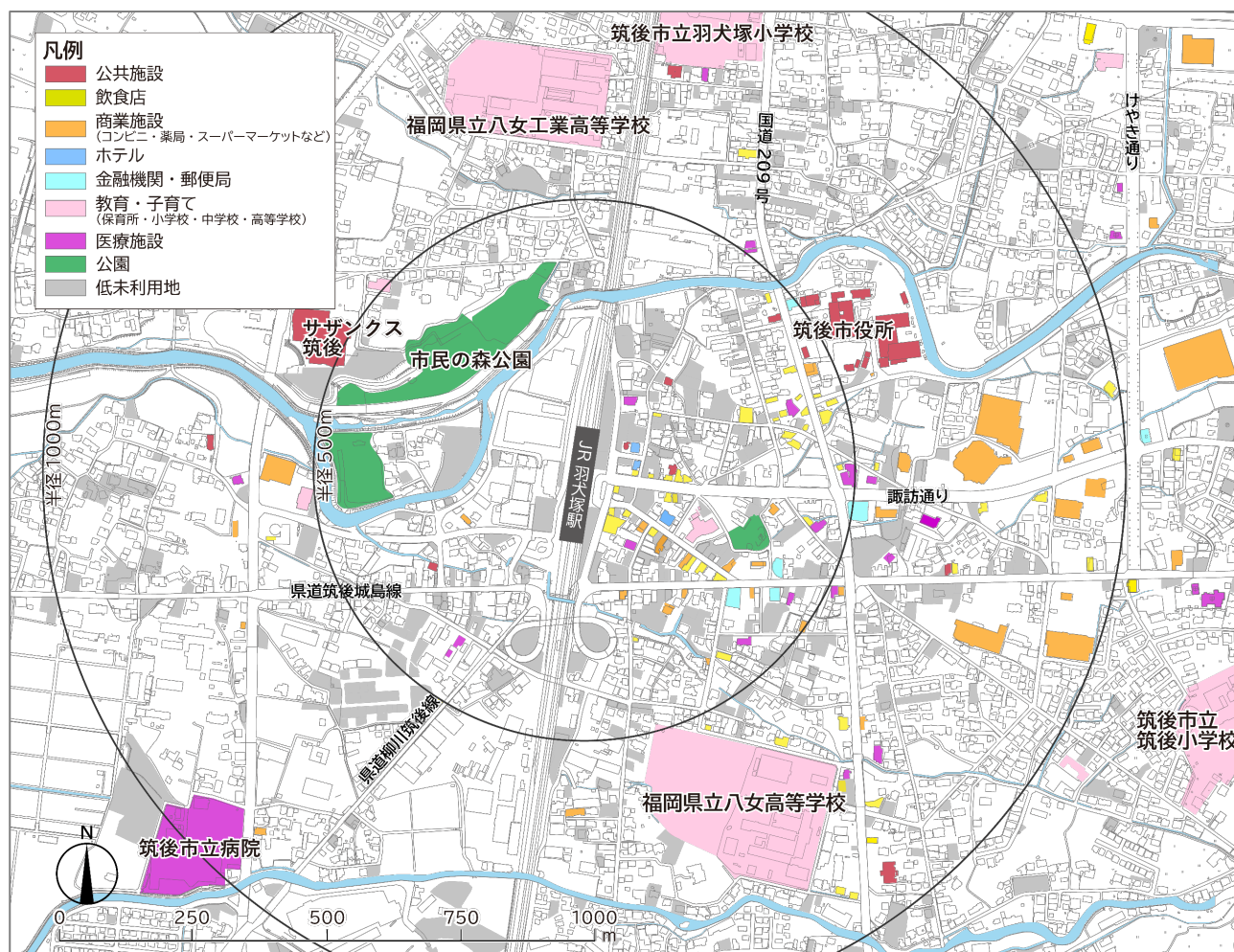


2. 地区のポテンシャルと課題

1) ポテンシャルマップ

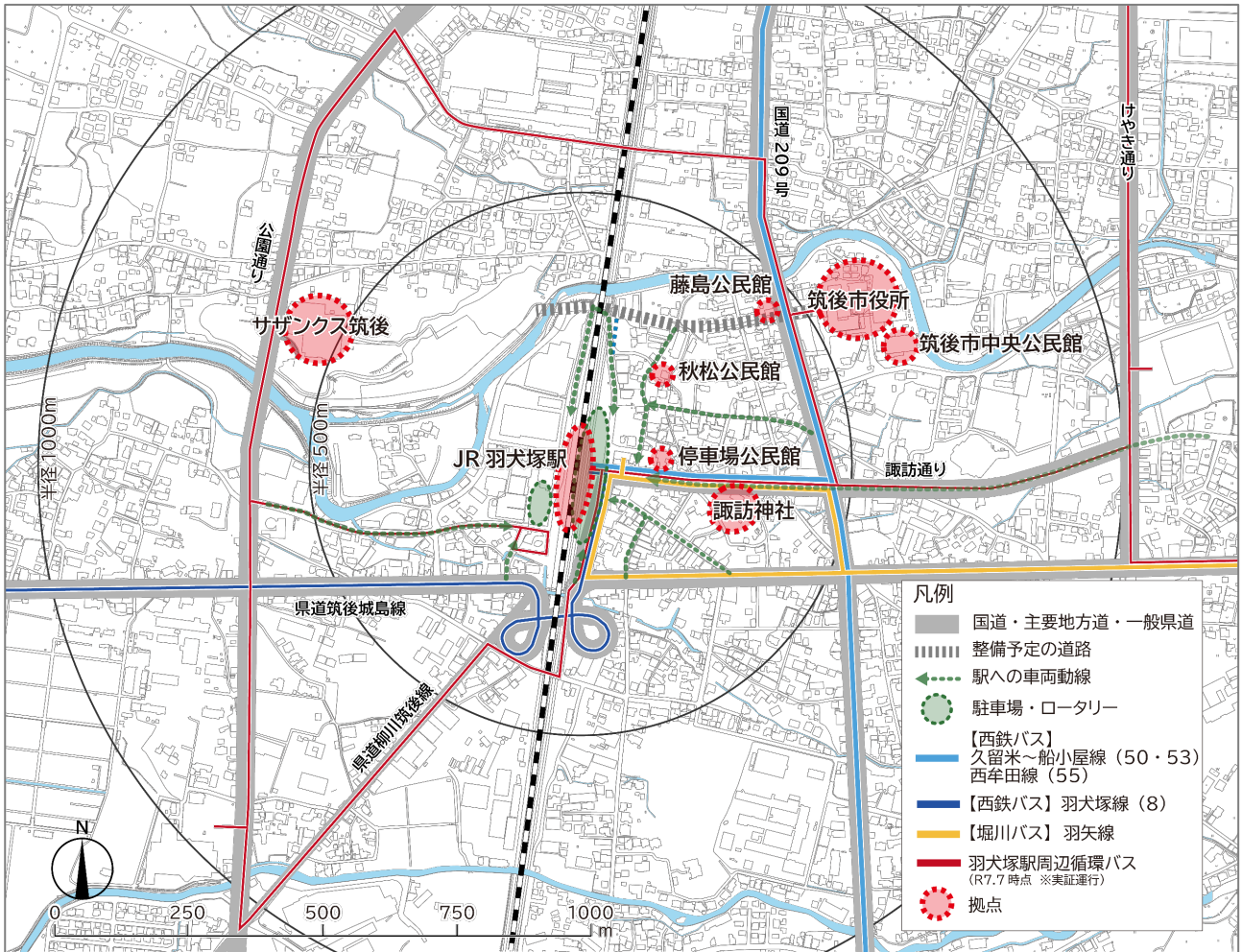
ポテンシャルマップとは、地区における歴史資源や産業、交通、公共施設等の様々な要素を地図上に示したものです。JR 羽犬塚駅周辺地区のポテンシャルを下記のとおり整理します。

【都市機能】



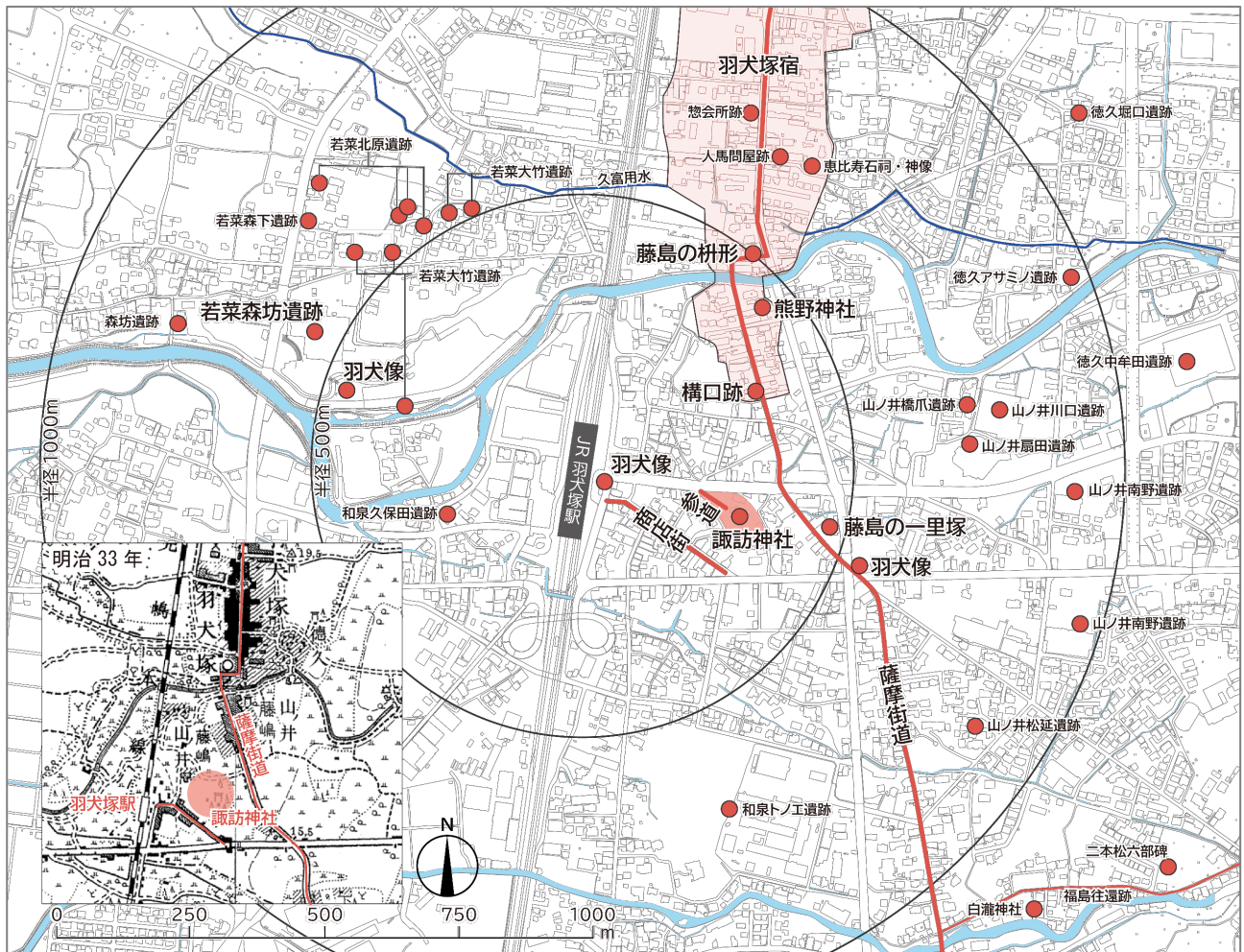
- JR羽犬塚駅から1km圏内には、市役所やサザンクス等の公共施設のほか、小学校や高等学校等の教育施設、市立病院等の医療施設、スーパー等の商業施設、大規模な公園などが立地している。
- 金融機関・郵便局は、駅から500m 圏内の幹線道路沿いに立地している。
- 諏訪通りや商店街、市役所周辺には多くの飲食店が立地している。
- 駅周辺 500m圏内には、コンビニやスーパー等の商業施設の立地は少ないものの、1km圏内には多く立地している。
- 駅周辺には低未利用地が多く点在しているが、今後有効活用することにより、魅力的な地区を形成することができる可能性がある。

【拠点・交通】



- 拠点として、筑後市役所やサザンクス筑後が JR 羽犬塚駅から 500m 前後の距離に立地している。また、駅周辺 500m 圏内には行政区ごとに3つの公民館が立地している。
- 道路交通は、南北に国道 209 号やけやき通り、公園通りが通り、東西に県道筑後城島線が通っている。
- JR 羽犬塚駅は、久留米駅まで10分強で行けるなど、地域において重要な公共交通として、通勤通学者を中心として多くの方々が利用している。(1 日平均乗車人員:2,688 人(R5 年))
- JR 羽犬塚駅を一つの起終点として、国道 209 号や県道筑後城島線に複数のバス路線が存在しており、交通結節点となっている。(西鉄バス、堀川バス、羽犬塚駅周辺循環バス等)
- 駅前のロータリーは、通勤・通学など、公共交通の利用拠点として、多くの人が集まっている。

【歴史・地域資源】



古地図：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」((C)谷 謙二)により作成

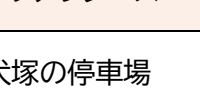
- 薩摩街道の宿場町として羽犬塚が発展。その後、JR 羽犬塚駅の誘致により物流の拠点として発展した。
- 1900～1911 年頃には、南北に通る薩摩街道のほか、現在の商店街や諏訪神社があった。諏訪神社の参道は、商店街と並行していた。
- 駅周辺に点在する羽犬像は、地域住民や観光客に親しまれている。
- 諏訪神社・筑後市中央児童遊園では、継続的に地域のイベントが開催されており、地域コミュニティの場として機能している。諏訪神社と筑後市中央児童遊園の一体的な整備・活用を行うことにより、歴史と自然が調和した空間を楽しむことができる。
- 歴史を感じられる歩行者動線として薩摩街道を活用できる可能性がある。

2) 住民の意見

令和7年2月4日に、JR羽犬塚駅エリアプラットフォーム部会にて、JR羽犬塚駅周辺の将来像を考えるグループワークを実施しました。実施概要と成果について下記にまとめます。

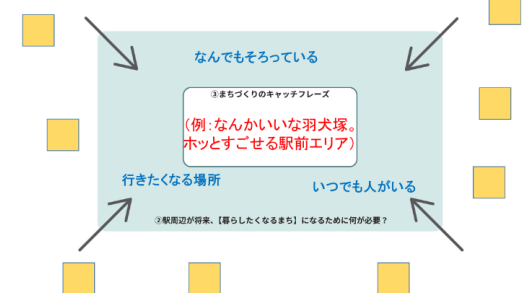
【ワーキング内容】

グループ作業① 模造紙にまとめる

【キーワード】 ●まちづくり…「安全安心に暮らせそう」、「ここに住んでよかった」 ●空間整備…「ホッとする空間」、「自分らしく」、「市の玄関口」 ●寛容である気質…「新しいことにチャレンジできそう」 ●何となくの声…「なんか良いな ちくこ(羽犬塚)」	
項目	内容
駅周辺に必要なもの	・○○○○○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○○○○○ 
駅周辺が将来、 【暮らしやすくなるまち】 になるために何が必要？	・○○○○○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○○○○○ 

グループ作業②

●グループ作業①を踏まえ、
まちづくりのキャッチフレーズを書いてください！



③まちづくりのキャッチフレーズ
 (例: なんかいいな羽犬塚。ホッとすごせる駅前エリア)
 ①駅周辺に必要な施設・モノ
 ②駅周辺が将来、【暮らしやすくなるまち】になるために何が必要？

【グループワークの様子】



【グループワークの成果】

グループ	キャッチフレーズ	駅周辺が将来【暮らしやすくなるまち】になるために何が必要？
1	彩あふれる羽犬塚の停車場	「建物+広場(駐車場)」 「シンボル 顔となるもの」
2	ちょうど良い 心地よい 見守るまち	
3	なんかいいな羽犬塚 住まんね筑後	「明るさなどの安心」「駅から降りた印象」 「店(買い物・飲食)がある」
4	みんなのリビング	「まちの顔」「人とのつながり」 「にぎわいの場所」「子どもの居場所」

【グループワークのまとめ】

グループワークの成果を全体で共有し意見交換を行った結果、『まちの顔』や『居場所』、『居心地』などが重要なキーワードとして上がり、それを体現する言葉として、グループ4(子育て世代)の『リビング』という言葉に多くの共感が得られました。

3) 地区のポテンシャルと課題

『JR羽犬塚駅周辺地区まちづくりビジョン』で整理した対象地区の概要と課題と、これまでの検討をふまえて、地区のポテンシャル、および本地区の整備に向けた課題を以下に整理します。

	ポテンシャル	課題
都市機能	- JR 羽犬塚駅から 1 km圏内に市役所や学校、金融機関、商業施設等が多く立地しており、生活に必要な機能が充実している。 - 駅周辺には飲食店が多数立地している。 - 学校が駅周辺に多く立地しており、通学に便利である。 - 低未利用地が点在しているが、今後の有効活用の余地がある。	- 都市機能が分散しており、自家用車で移動する住民が多い。 - まちなかに気軽に休憩・勉強ができる空間が少ない。 - 保育施設や娯楽施設、子供が遊べる場所が不足している。 - 駅周辺に低未利用地が多く、治安・景観の悪化が懸念される。
公共交通・道路	- JR 羽犬塚駅は、多くの通勤通学者が利用しており、交通利便性が高い。 - 西鉄バスや堀川バスなど複数のバス路線が乗り入れており、周辺市街地、拠点とのアクセス性も高い。 - 南北に国道 209 号やけやき通り、公園通りが通り、東西に県道筑後城島線が通っているなど、道路網が充実している。	- 朝夕の時間帯は、駅前ロータリーに送迎自家用車が集中し、混雑している。 1つのロータリー内に路線バス・タクシーと自家用車が混在しており、安全性やバスの定時性に懸念がある。 - 駅前の滞留空間が不足し、日常的な滞留やイベント等によるぎわいが生まれにくい。 - 狭隘道路が多い。
歩行空間・公園	- 筑後市中央児童遊園は駅からの徒歩圏内に位置し、豊かな緑を有する諏訪神社と一体となった公園として、貴重な憩いの空間となっている。 - 諏訪通りや商店街、高架下などは、学生の通学路として日常的な利用が見込める。	- 市民の森公園と筑後市中央児童遊園のほかに公園がなく、駅周辺に公園・広場が少ない。 - 諏訪通りの人通りが少なく、夜間は暗い。 - 諏訪通りの街路樹は強剪定されており、寂しい印象である。
歴史・地域資源	- 諏訪神社・筑後市中央児童遊園で、継続的に地域のイベントが開催されており、地域コミュニティの場として機能している。 - 諏訪神社の大きな社寺林があることで、まちなかでも自然を感じられる。 - 駅周辺に点在する羽犬像は、地域住民や観光客に親しまれている。	- 古い建物が多く、更新されていない。 - 薩摩街道に現存する古い町家が有効活用されていない。 - JR 羽犬塚駅は、市の玄関口としてのシンボル性が十分ではない。
防災	- 防災マップの作成や水路の清掃などの活動が行われており、防災意識が高まっている。 - 内水対策・外水対策が進められている。	地区の大半が洪水浸水想定区域に指定されており、過去にも浸水実績があるため、地域全体で浸水対策に取り組むことが必要。

3. まちの将来像

1) まちの将来像

JR 羽犬塚駅周辺地区は、公共交通の利便性が高く、市役所・学校・金融機関・商業施設などの充実した都市機能が立地しており、住みやすいまちとなっています。しかし、駅周辺に空き家・空き地が多く人々が憩い、居場所として感じられるような空間が乏しいこと、都市機能が分散しているため多くの住民が自家用車で移動していることから、居住環境が充実していると感じにくくなっています。

持続的なまちづくりを進めるためには、地区の住民や、学生を中心とした駅利用者が「暮らし続けたい」と感じ、地区外の人には「行きたい、暮らしてみたい」と感じてもらえるようにすることで、子育て世代を中心とした居住人口を確保していくことが重要です。また、これまで「便利なまちの玄関」として役割を求められてきましたが、これからは「便利さ」だけでなく、「居心地の良さ」や「ほっとする」ことが求められているようです。

そこで、利便性・安全性が高く、地域の自然や歴史を活かした豊かな居住環境を感じられるような、住んでいる人や暮らしている人が「リビング」のように「ほっと暮らせる」地区を目指します。

【JR 羽犬塚駅周辺地区の将来像】

ほっと暮らせる 駅前リビング

～「便利なまちの玄関」から「居心地の良いまちのリビング」へ～

【ほっと暮らせるとは？】

- 地域全体で防災の取り組みを行っている
- 車を運転しなくても(できなくても)、スーパーや病院が身近にある
- 利便性の高い鉄道駅や路線バスが近くにあり、多様な交通手段でアクセスしやすい
- 空き家や空き地が有効に活用されている
- 子供から高齢者まで自分らしく過ごせる居場所がある
- 夜暗くなっても安心して歩ける
- 子どもが遊べる空間が身近にある(公園や広場の整備)
- 学生が学べる空間が身近にある(コワーキングスペース等の確保)
- 地域ぐるみで子育てを応援している(子ども食堂等)
- 地域で暮らすすべての人が、障がいの有無や年齢、国籍など関係なく、お互いに助け合い、支えながら、安心して暮らす事ができる

2) 将来像実現のための3つの柱

1. 安全・安心なまちづくり

- ・ 頻発・激甚化する水災害に対して、雨水貯留池の整備に加え、グリーンインフラの導入や宅地内の雨水対策を検討するなど、地区全体で防災力を高め、みんなが安心して安全に暮らせる防災まちづくりを目指します。
- ・ JR 羽犬塚駅への主な歩行者動線について、夜間でも安心して歩ける環境に整備し、防犯性を高めることで地区全体の安全性の向上を図ります。

2. みんなの居場所となる多様な空間づくり

- ・ 駅前広場や諏訪通り、公園等の再整備を通して、子どもから高齢者まで誰もが自分らしく過ごすことができ、市民一人ひとりが愛着を持つ居心地がよい場所となるように、多様な空間づくりを目指します。
- ・ 多様な居場所での活動が周囲に波及し、ネットワークとしてつながっていくことで、居住環境の向上や都市機能の新たな立地など、地区全体の好循環を目指します。

3. まちの顔となる駅前拠点づくり

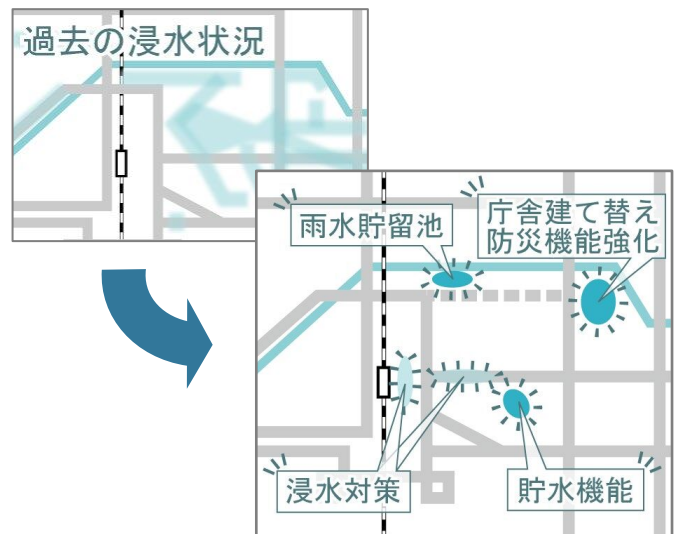
- ・ 駅前ロータリーを再編し、公共交通や自家用車の交通の流れを円滑にすることで、すべての人が安全かつ快適に移動できる交通拠点を創出します。
- ・ 羽犬塚の歴史や自然の特色を背景とした駅前広場環境空間や諏訪通りの再編により、愛着を持って使ってもらえる駅前空間を創出するとともに、日常的に人々が憩い多様な活動が生まれる様子が「まちの顔」になるような駅前拠点づくりを目指します。



3) ダイアグラム

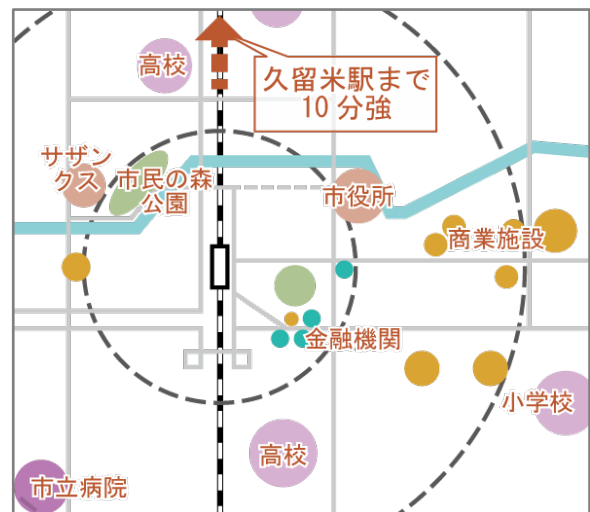
1 防災・防犯機能の強化

- 調整池の整備等の雨水対策や、庁舎建て替え、道路の新設などにより、地区の防災機能の強化を推進します。
- 街灯を設置するなど、地区全体で夜でも居心地が良く安心して歩ける環境を整備し、歩行空間の防犯性を高めます。



2 既存のポテンシャルと課題認識

- 現在の JR 羽犬塚駅周辺地区は、公共交通利便性が高いことに加え、市役所や学校、金融機関、商業施設など生活に必要な機能が充実しているというポテンシャルを有しています。
- 居場所として感じられるような空間が乏しいこと、都市機能が分散しているため自家用車で移動する住民が多いことから、充実した生活環境を活かしきれていません。



3 公共空間の充実

- 駅前広場再編により、JR 羽犬塚駅の利便性と快適性の向上を目指します。
- 駅前広場環境空間と諏訪通りの一体的な整備、公園の再整備などにより、住んでいる人、暮らしている人の営みを支える土台となる、充実した公共空間を創出します。



4 多様な交流や活動につなげる

- 公共空間を、キッチンカーや仮設店舗の出店、小規模なイベント開催など、チャレンジできる場として活用し、官民が連携し様々な利活用方法を模索し、実践していきます。
- 公共空間が、新しい交流や多様な活動を生み出す場となることを目指します。



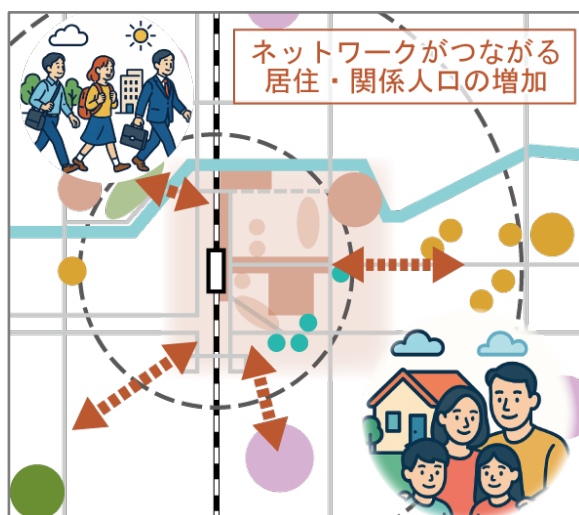
5 交流・活動が新たなニーズを生む

- 4でのさまざまなチャレンジを通して見えた新たなニーズに対して、低未利用地を活用した新しい機能の創出を促進します。
- 商店街や薩摩街道など既存の地域資源の活性化へと波及し、地区全体として多様な活動が溢れる場を創出していきます。



6 拠点がつながり、新しい人の流れに

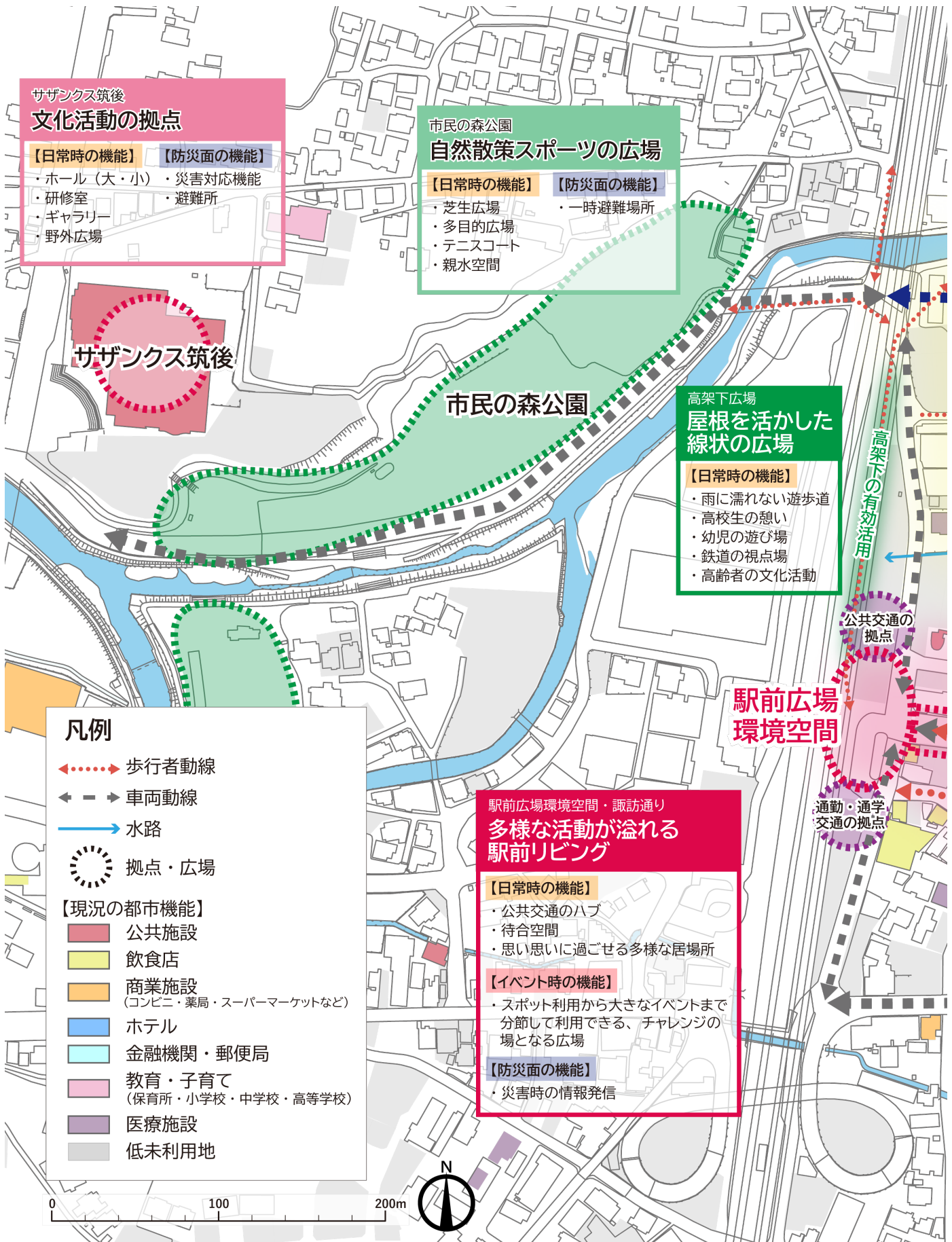
- 居心地が良く使いやすい公共空間や地域内での多様な交流活動が生まれる事で、地区の価値や魅力を向上させ、市内外からの居住や関係人口を増加させることを目指します。
- 居住人口や関係人口を増加させ、JR 羽犬塚駅周辺地区への新しい人の流れの創出を目指します。

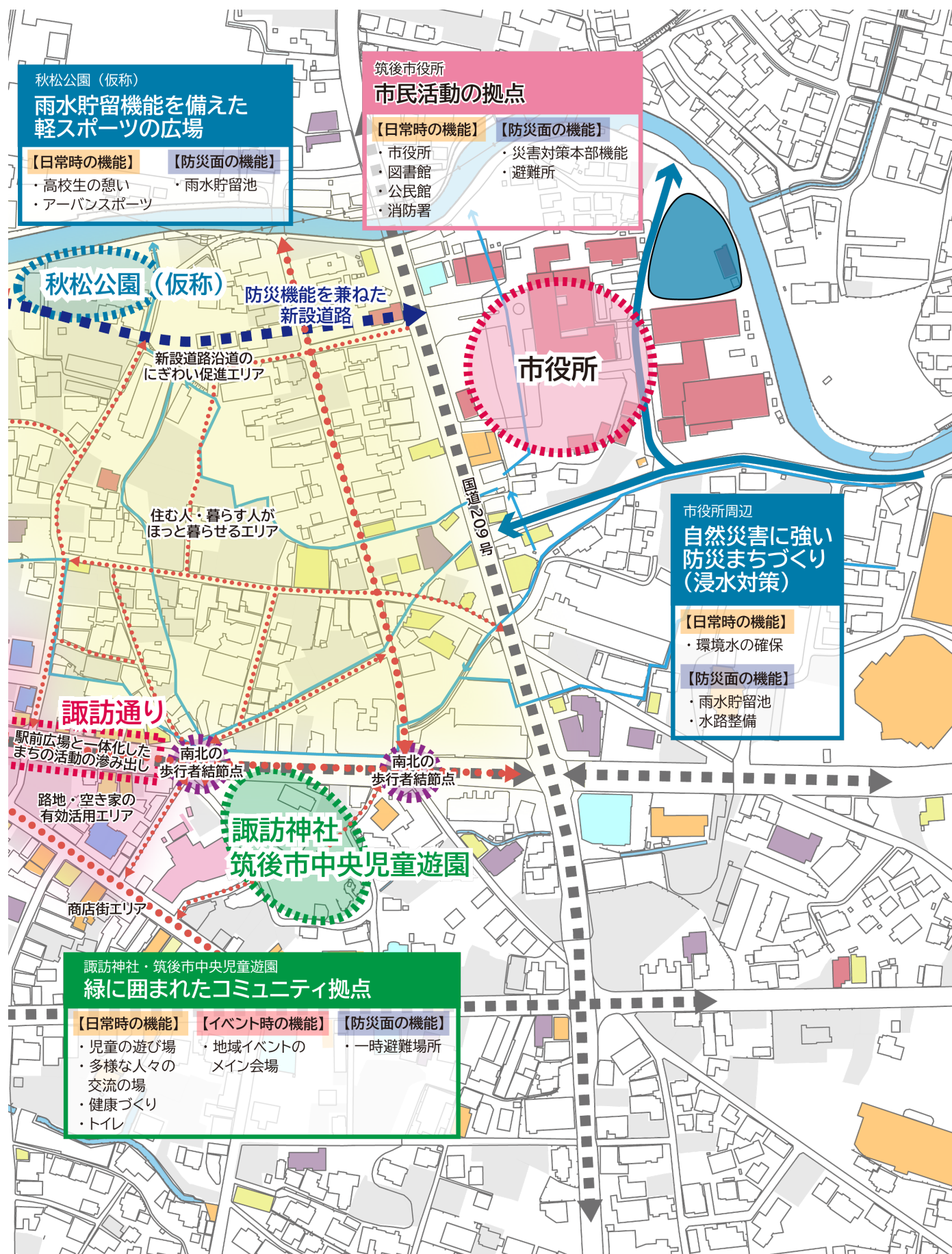


4) 将来方針図

3

まちの将来像





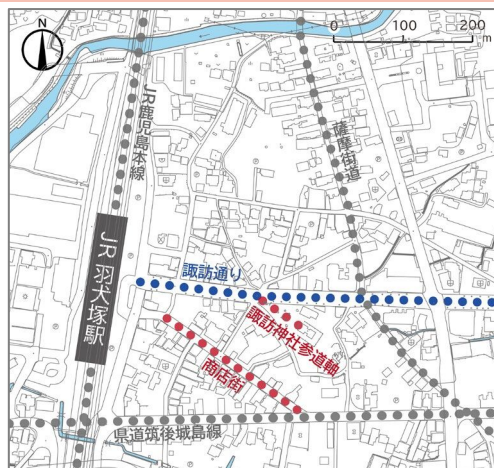
4. デザイン方針

JR 羽犬塚駅周辺地区の将来像「ほっと暮らせる 駅前リビング」と、それを実現する3つの柱を体現するため、地区全体のデザインの統一的な考え方を整理します。

JR 羽犬塚駅周辺地区を作ってきた「まちの軸」を意識したデザイン

歴史を感じる諏訪神社の参道軸を反映

- JR 羽犬塚駅周辺は、南北に走る JR 鹿児島本線と薩摩街道、東西に走る県道筑後城島線(旧国道 442 号)の交わる結節点として発展してきました。
- 諏訪神社は、設立年代は不明ですが江戸時代末には存在しており、以降この地に鎮座しています。JR 羽犬塚駅創設後に形成された商店街の軸線が、諏訪神社参道と並行しており、諏訪神社の参道軸がまちの形成に影響を与えていたと考えられます。
- 新たなまちづくりにおいても、駅周辺が発展してきた歴史的な軸を意識し、歴史の趣きをデザインに反映します。



▲JR 羽犬塚駅周辺の軸線

筑後市の顔となる諏訪通り

- 1950 年頃に開通した諏訪通りは、駅前通りとして今後のまちづくりにおいて重要な役割を担っています。
- 改札から出て諏訪通りに抜ける視線、諏訪通りから見える駅前広場の姿、そしてその沿道景観では、まちの顔となる羽犬塚らしい景観の創出を目指します。

羽犬塚・筑後らしさを感じる素材・カタチを使う

昔から筑後で使われてきた自然素材やモチーフを活用

- 昔から矢部川流域で使われている石材を活用することで、筑後市の歴史・風土にあった空間を創出します。
- 筑後市には、久留米絨等の伝統工芸も多く存在しており、これらの素材やカタチをデザインに活用します。
- 先代の駅舎にあった大きな屋根の反りは、一つの羽犬塚らしさとして市民の記憶に刻まれています。この形状は羽犬伝説の羽をモチーフにしたものと考えられ、このカタチを踏襲し、なつかしさと未来を感じるデザインを目指します。



▲JR 羽犬塚駅 先代駅舎

新しいことに寛容な羽犬塚らしさを体現して新技術も導入

- 筑後市は、古くから宿場町や交通の要衝として栄えたこともあり、ホークス誘致や恋の木神社など新しいことに寛容な土地柄です。
- 伝統的な自然素材だけでなく、ガラスやコンクリート、ステンレス、膜材など機能性を重視した素材も活用することにより、新しいことに寛容な羽犬塚らしさを体現します。

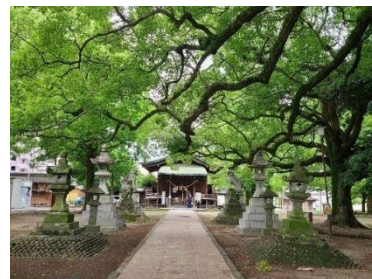


▲久留米絨

地域のみどりを保全・活用し、潤いのある空間に

諏訪神社や屋敷林など地域の風土にあったみどりの保全・創出

- ・ 諏訪神社や六所宮には、「筑後市の木」でもある大きなクスノキがあり、そういった緑が見える景色が羽犬塚らしさになっています。
- ・ 本地区では、既存の大きな樹木を適正に管理し活かすことを主として、憩いの場として必要な場所に適切な樹木を配置することで、潤いのある空間を創出します。樹種の選定については、維持管理を考慮しながら、シンボルとなる木や居心地が良く愛着を持って使える居場所となるような樹種を選定します。



▲諏訪神社の社寺林

グリーンインフラの導入

- ・ 地区の防災性を向上させるため、グリーンインフラの導入を検討します。
- ・ JR 羽犬塚駅周辺地区の公共空間から先駆的に導入の検討を行い、将来的には宅地内における雨水流出抑制を進めていき、地区全体にグリーンインフラの考え方が浸透したまちづくりを目指します。

グリーンインフラとは？

自然の持つ様々な機能を、社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、持続可能で魅力ある国土・地域づくりに活用する取組みのことです。

具体的には、自然環境が有する多様な機能を防災・減災、地域創生、環境保全などに活用することを指します。

誰もが落ち着いて過ごせる温かみのある色合い

筑後市の玄関口として、華美になりすぎず、日常生活に溶け込む色合い

- ・ 駅前リビングとしてほっとする空間の創出を目指す上で、華美な色合いはその妨げになる恐れがあります。
- ・ 景観を構成する色は、本地区の自然や建物と調和し、温かみのある色合いを用いることとします。
- ・ 道路や駅前広場等の公共空間では、背景となる構造物の色とその他の構造物の色で使い分けを行います。背景色は、景観に配慮した基本色とされているダークグレー、グレーベージュ、オフグレーから選ぶこととし、アクセントカラーとして筑後市の色であるエンジ色を活用しながら、地区全体で統一感のある景観形成を目指します。

【背景色】

- ダークグレー
- グレーベージュ
- オフグレー

【アクセントカラー】

- エンヂ色

温かみがあり、安心して歩くことができる夜間景観の創出

- ・ 利用者の安全性を確保するため、歩行者動線となる場所では十分な明るさの確保に努めます。
- ・ 加えて、地区の方向性として、日常的に人々の憩いの空間となり、ほっとする空間を創出することが求められます。そこで、温かみのある安心して歩くことができる夜間景観を創出するため、安全性と快適性を両立させる照明デザインを行います。
- ・ 明るさの確保と人への印象の両立を目指し、照明の色温度は【2700K～3000K 電球色】を基本とします。

※色温度とは、太陽光や自然光、人工的な照明などの光源が発する光の色を表すための尺度のこと。単位はケルビン(K)。

添付資料

1) まちづくりビジョン(デザイン編)の策定経緯

日付	会議名	内容
令和6年4月17日	JR羽犬塚駅周辺地区 エリアプラットフォーム	令和6年度総会において、現行のまちづくりビジョンの改定に向けた検討を実施する事を決定。
令和6年9月30日	JR羽犬塚駅周辺地区 まちづくり庁内WG	まちづくりビジョン改定に向けた検討をする事を共有。
令和6年10月1日	駅前エリア活性化部会	まちづくりビジョン改定に向けた検討をする事を共有し、地区の将来について意見交換を実施。
令和6年10月24日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	まちづくりビジョン改定の進め方について協議。
令和6年10月26日	JR羽犬塚駅周辺地区 まちづくりシンポジウム	地区の将来について、専門家を交えて対話型のシンポジウムを開催。
令和6年11月21日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	まちづくりビジョン改定の方針について協議。
令和6年12月25日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	住民アンケート及び駅利用者アンケート結果を共有し、ポテンシャルマップについて協議。
令和7年1月23日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	地区のポテンシャルを整理し、将来方針図について協議。
令和7年2月4日	駅前エリア活性化部会	駅周辺に必要な機能やモノ、居心地が良く歩きたくなるまちになるために必要な事、まちの将来像キャッチフレーズについて、ワークショップを実施。
令和7年2月19日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	ワークショップを踏まえ、将来像や将来方針図、エリアデザインの方針について協議。
令和7年3月26日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	まちづくりビジョン改定(素案)について協議。
令和7年3月27日	JR羽犬塚駅周辺地区 まちづくりシンポジウム	まちづくりビジョン改定の取組状況について報告。
令和7年5月20日	JR羽犬塚駅周辺地区 都市デザイン調整会議	まちづくりビジョン改定(案)について協議。
令和7年5月27日	駅前エリア活性化部会	まちづくりビジョン改定(案)について意見交換を実施。
令和7年6月2日～ 令和7年6月13日	JR羽犬塚駅周辺地区 まちづくり庁内WG	まちづくりビジョン改定(案)について、庁内WG委員へ意見照会。
令和7年6月2日～ 令和7年6月13日	JR羽犬塚駅周辺地区 エリアプラットフォーム	まちづくりビジョン改定(案)について、エリアプラットフォーム委員へ意見照会。
令和7年7月4日	JR羽犬塚駅周辺地区 エリアプラットフォーム	令和7年度総会において、まちづくりビジョン改定を承認。



デザイン編のとりまとめにあたって

このたび、筑後市 JR 羽犬塚駅周辺地区におけるまちづくりの新たな指針として、「まちづくりビジョン(デザイン編)」をとりまとめました。本ビジョンは、地域に暮らす方々や駅を日常的に利用する皆さんの視点を大切にしながら、このまちでの「日常の暮らし」をより心地よく、安心できるものへと育んでいくための方針を示すものです。

羽犬塚駅周辺地区は、筑後市の公共交通の結節点であり、市役所や学校、病院など、日々の暮らしに必要な機能が集積する生活の拠点です。こうした都市の骨格を生かしながらも、近年では空き地や空き家の増加、防災上の懸念、居場所の不足といった課題も抱えており、暮らしの「質」を見直す転機にさしかかっています。

私たちは、このまちの未来像を「ほっと暮らせる駅前リビング」として描きました。駅を中心に、子どもから高齢者まで誰もが自分らしく過ごせる場所が点在し、安心して歩ける道があり、日常に必要な機能が身近にそろう。そんな、特別なにぎわいではなく、当たり前毎日が豊かで、少し嬉しくなるようなまちを目指しています。

また、こうした暮らしの豊かさが実感できるまちは、将来、新たにこの地で暮らしたいと願う人々をも惹きつける力になります。羽犬塚駅周辺地区が、地域内外の人々にとって「選ばれる場所」であり続けるためには、まずここに暮らす方々の声に丁寧に応え、地域の日常を丁寧に整えることが出発点であると、私たちは考えます。

このデザイン編が、日々の営みを支え合う地域の皆さまとともに、小さくも確かなまちの変化を積み重ねていくための手がかりとなり、羽犬塚駅周辺地区の未来を形づくる力となることを願ってやみません。

令和 7 年 7 月

JR 羽犬塚駅周辺地区エリアプラットフォーム 会長

黒瀬武史(九州大学 教授)

発行：JR 羽犬塚駅周辺地区エリアプラットフォーム

事務局：筑後市建設経済部 都市対策課

〒833-8601

福岡県筑後市大字山ノ井 898

<https://www.city.chikugo.lg.jp/>

